References

Fabbri, F. 1963. Caryologia **16**: 237-335. Kondo, T. 1929. Bot. Mag. Tokyo **43**: 544-555. Kurita, S. 1965. Journ. Jap. Bot. **40**: 234-244. Löve, A. & D. Löve 1961. Amer. Fern J. **51**: 127-128. —— & —— 1966. Bot. Tidssk. **62**: 186-196. Lovis, J. D. 1977. Adv. Bot. Res. **4**: 229-418. Mitui, K. 1966. Journ. Jap. Bot. **41**: 60-64. —— 1986. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Educ. **15**: 115-124. Manton, I. 1950. Problems of cytology and evolution in Pteridophyta. Cambridge. Smith, A. R. & J. T. Mickel 1977. Brittonia **29**: 391-398.

* * * *

日本のヒリュウシダ属のシシガシラ亜属（シシガシラ属とする説もある）にはシシガシラ，オサシダ，ミヤマシシガシラの3種が知られていて，いずれも日本固有種である。これら3種の体細胞染色体を観察した。シシガシラとオサシダはともに 2n=62で，Kurita (1965) と Mitui (1966, 1986) の報告した n=31 と一致した。また，今回はじめて染色体数が明らかとなったミヤマシシガシラは，2n=340 であった。シシガシラとオサシダは x=31 の2倍体，ミヤマシシガシラは x=34 の10倍体とみなすことができる。このことから，ミヤマシシガシラと他の2種は別群に属すものと考えられる。また，ヨーロッパと北アメリカに分布する *B. spicant* は，多くの研究者によって n=34, 2n=68 と報告されている。染色体数から考えると，ミヤマシシガシラは *B. spicant* に近縁だと考えることができる。今まで外国では，日本のシシガシラを *B. spicant* のアメリカ型の亜種に含ませていたが，それは誤りであることを指摘した。

□神奈川県立博物館：**神奈川県植物誌分布図集シダ類・裸子類・単子葉類** 111 pp. 1986. 神奈川県立博物館，横浜．￥1000（送料別）．神奈川県植物誌編纂事業の中間成果の一部が刊行された。B4版を横に使い，1頁に9種類の分布図を示している。神奈川県の調査計画の特色として経緯度メッシュを用いず，人文地理的な観点から105の地区を分け，各地区の代表点に分布記号が記されている。データはすべてパソコンに集積され，これを整理したうえ，全部の種類について標本・文献・メモなどの資料源が示されている。これらの整理や作図はソフトウエアを工夫することによりなされたものである。電算機利用のこのようなデータ処理は，出力をながめて感じるよりはるかに多くの苦心が裏で払われているもので，資料収集に協力されている多数の方とともに，データ管理の当事者の努力に敬意を表する。入手希望者は大場達之氏に連絡されたい。（金井弘夫）